



杉並区

令和6年7月9日
杉並区広報課

理美容サロンで使い終わったアルミチューブ売却の収益が車いすに！

車いす2台を寄贈していただきました

この度、東京都理容生活衛生同業組合杉並支部(<http://riyo-suginami.net/>)から自走式の車いす2台が寄贈され、本日7月9日(火)13時より、杉並区役所にて感謝状の贈呈を行いました。

今回寄贈していただいた車いすは、同支部に加盟するおよそ110の理美容サロンで使い終わったカラー剤のアルミチューブを集めたものを、BBリサイクルパートナーズの協力により二次合金製造会社買い取ってもらった収益で購入したものです。

車いす1台を購入するためには約1t、本数にすると10万本ほどのアルミチューブが必要であるため、手助けになるように同支部では青年部からの提案をきっかけに4年ほど前からこの取り組みを始め、BBリサイクルパートナーズに使用済みのチューブを持ち込んでいました。なお、同支部の加盟店では、病気や障害などにより外出できない高齢者・重度心身障害者に対する訪問理容サービスや、子供たちが犯罪の被害に遭ったり、遭いそうになったりしたときに駆け込める「理容こども110番の店」などの社会貢献活動も行っています。

岸本 聡子区長は感謝状を手渡し、「皆で集めた力が物として役に立ち、区民に見える循環が出来るのはとても素晴らしいことですね。今後の発展を期待いたします。」とお礼を述べました。

同支部の菊地 勝支部長は「現在の社会にとって福祉は切っても切れないものなので、当組合や支部でどのようなことができるか考えていきたい。」と述べました。

また、今回協力を行ったBBリサイクルパートナーズは2015年からこの活動を始め、理・美容室で使い終わったアルミチューブを業者に買い取ってもらったお金で車いすを購入し、地域の介護施設や社会福祉協議会へ寄付してきたことから、2023年には活動が評価され、第10回環境省グッドライフアワード実行委員会特別賞を受賞しました。

同団体では今回の2台を含めて29台の車いすを寄付しているということです。

代表の石井 賢一氏は「賛同してくれる団体も増え、徐々に広がりを見せている活動ですが、空き缶などのように生産者が回収し、工場で再生されるサイクルが出来上がって我々の手からこの活動が離れていくのが目標です。」と抱負を語りました。

区では今回寄贈していただいた車いすを、区役所来庁者への貸し出しや障害者施策課の職員が区民宅に訪問したときなどに活用していきます。

出席者

東京都理容生活衛生同業組合杉並支部 支部長 菊地 勝 氏(写真左)

BBリサイクルパートナーズ 代表 石井 賢一 氏(写真左から2番目)

杉並区長 岸本 聡子(写真中央)

東京都理容生活衛生同業組合杉並支部 副支部長 今村 昇博 氏(写真右から2番目)

// 青年部長 渡部 匡則 氏(写真右)



【報道機関 問い合わせ先】

障害者施策課管理係：03-3312-2111 内線1142

広報課報道係：03-3312-2111 内線1502